

# 淀協・東日本地震対策本部ニュース

No3 2011.3.16 淀協東日本地震対策本部

## 第3次支援隊予定通り出発！！

### 落合医師、長医師、板木平看護師

福島原発の相次ぐ爆発で、15日は一時的に福島入りをストップしていましたが、全日本民医連の医師をはじめとした調査・検討の結果、16日から支援の再開が確認されました。淀協から第3次支援隊として、上記3人が大阪民医連を朝9時に出発します。

#### 長医師が、現地の淀協支援隊に送ったメールです

厳しい環境の中での活動に敬意を表します。

本日（15日）の産経新聞の夕刊記事です。「福島第1原発の敷地内で、最高毎時400ミリシーベルトという非常に高濃度の放射線量が検出されたことについて、広島大原爆放射線医科学研究所の星正治教授（放射線物理学）は「非常に高い数字ではあるが、現時点で（20～30キロの屋内退避を命じた）政府の指示は妥当と思われるので、パニックになることだけは避けてほしい」と冷静な対応を呼び掛けている。

星教授によると、放射線を急に（急性）全身被曝（ひばく）した場合、人により差はあるが、毎時300～500ミリシーベルトでリンパ球減少などの急性症状が出始めるといい、その数値に達している。10時間浴び続けると、毎時4千ミリシーベルトを1時間浴びた場合と同じ放射線量となり、浴びた人の50%が1カ月以内に死亡するほどという。一方で星教授は「逆に1分浴びただけなら放射線量は60分の1となるわけで、一瞬ならば、そうした健康被害の恐れは少なく、また距離が離れると放射線量は減る」と話す。政府の指示については「専門家が距離を計測して指示を出しており、現状の数値が正しければ危険性は低い。情報に気をつけ、パニックにならずに指示に従ってほしい」と呼び掛けている。とのこと。

西淀の大久保さんによると、現在全日本民医連も放射能が人体に与える影響等を専門家に問い合わせている最中で、本日出発予定だった支援部隊は出発延期になりました。発電所からの距離および活動時間を鑑み、人体への影響を評価した上で支援に踏み切るとしています。現在のところでは、僕らが行けるかどうかは明日に判断されるとのことです。

（その後、全日本民医連は支援再開を判断しました。長医師の了解を得て掲載しました）

#### 職員や地域から心を込めた義援金やタオルが続々届けられています

\*本日分だけで、職員84人から1,226,030円、職員外から79,207円、合計1,305,237円でした。タオルも職員や家族からたくさん届けられています。

\*労組では夕方1時間「義援金とNsウェブ」に取り組み、ナショナル前では本部事務局支部5人で30,968円、御幣島駅地下では本部執行委員、女性部役員、青年部役員11人で48,963円、合計79,931円。1万円札を出してくれる方も数人いました。ボランティアニ行きたいという青年もいました。

引き続き、現地で奮闘する支援隊と心をつなげて、支援活動を展開しよう！！